

KCOG 婦人科グループ 平成 27 年度活動計画書

1. 臨床試験

1.1. 進行中の臨床試験・調査研究

① KCOG-G1002

『子宮頸部上皮内腫瘍(CIN3)に対する円錐切除術後のヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンによる HPV 再感染予防に関する検討』

(主任研究者:三重大 田畑 務)

② KCOG-G1101

『子宮頸がん Ib・IIa 期リンパ節転移症例を対象としたパクリタキセル(PTX)/ネダプラチン (NDP)による術後補助療法に関する第 II 相試験』

(主任研究者:静岡がんセンター 武隈宗孝)

③ OGSK_KCOG-G1201

『子宮頸がん Ib2 期・II 期を対象としたイリノテカン塩酸塩水和物＋ネダプラチンによる術前補助化学療法＋根治手術＋術後補助化学療法—臨床第 II 相試験—』

(主任研究者:京都府立医大 澤田守男)

④ KCOG-G1303

『進行・再発子宮体癌に対する ddTC 療法(臨床第 II 相試験)』

(主任研究者:関西ろうさい病院 堀謙輔)

⑤ KCOG-G1304

『Taxan 使用歴のある末梢神経障害患者に対するラフチジンとプレガバリンの randomized phase II study』

(主任研究者:東京女子医大東医療センター 長野浩明)

⑥ KCOG-G1305s

『卵巣成熟奇形腫の悪性転化に対する治療法・予後についての後方視的研究』

(主任研究者:奈良県立奈良病院 杉浦 敦)

⑦ KCOG-G1401

『中リスク群および高リスク群の子宮体がんに対する、術後補助療法の様式が予後に与える影響に関する多施設後方視的研究』

(主任研究者:三重大 田畑 務)

⑧ KCOG-G1402

『我が国における再発上皮性卵巣がん・卵管がん・腹膜がんに対する secondary debulking surgery の現状と再々発時の治療法および予後に関する調査研究』

(主任研究者:大分大学 平川)

1.2. 計画中の臨床試験

① KCOG-G1501s

『卵巣神経内分泌腫瘍の病理組織学的細分類と臨床予後への影響に関する後方視的研究』

(主任研究者:大分大学 甲斐健太郎)

②KCOG-G1502s

『子宮体部原発神経内分泌腫瘍に対する治療法・予後についての後方視的研究』

(主任研究者:大分大学 松本治伸)

2. 平成 27 年度学会発表予定

2.1. 国際学会

51th ASCO Chicago, USA May 29 - June 2, 2015

Nishikawa R. et al.

Usefulness of the patient self-administered cancer family history questionnaire in identification of gynecological cancer patients suspected of Lynch syndrome: KCOG-G1302 study.

51th ASCO Chicago, USA May 29 - June 2, 2015

Masakazu Abe, Yuka Kasamatsu, Kado Nobuhiro, Shiho Kuji, Aki Tanaka, Nobutaka Takahashi, Munetaka Takekuma, Yasuyuki Hirashima, Shin Nishio, Yoshio Itani, Yoshikazu Ichikawa, Yui Itonaga, Tomoko Hirakawa, Kaei Nasu, Kanoko Miyagi, Junko Murakami, Kimihiko Ito

Efficacy and safety of olanzapine combined with aprepitant, palonosetron, and dexamethasone for the prevention of cisplatin-based chemotherapy-induced nausea and vomiting for gynecological cancer: KCOG G-1301 phase II trial.

MASCC/ISOO Copenhagen, Denmark June 25-27, 2015

Abe M. et al.

Efficacy and safety of olanzapine ombined with aprepitant, palonosetron, and dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin-based chemotherapy: KCOG-G1301 Phase II trial.

ESMO Vienna, Austria Sep 25- 29, 2015

M. Abe , N. Takeshima , M. Matoda , Y. Hirashima , M. Takekuma , N. Takahashi , A. Tanaka , S. Kuji , N. Kado , Y. Kasamatsu , H. Itamochi , K. Furuya , Y. Ichikawa , K. Kai , Y. Itonaga , T.

Hirakawa , K. Nasu , K. Miyagi , J. Murakami , K. Ito .

Efficacy and safety of olanzapine combined with aprepitant, palonosetron, and dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin-based chemotherapy in gynecological cancer: comparison of two prospective phase II trials

2.2. 国内学会・講演会

第 57 回日本婦人科腫瘍学会、盛岡 8/7-9 2015

村上淳子、他

高度催吐性化学療法に対する標準制吐療法とオランザピン併用の有効性安全性：
KCOG-G1301 第 2 相試験

第 53 回日本癌治療学会学術集会、京都 10/29-31 2015

井上佳代、他

婦人科がん患者の心的ストレス評価と簡易検査法「つらさと支障の寒暖計」の有効性

3. 総会ならびに分科会開催

平成 27 年度予定

- 平成 27 年 5 月 16 日(土) 15-17 時 (O-DEC A 会議室)
分科会ならびにミニレクチャー
『卵巣明細胞腺癌Ⅲ,Ⅳ期における癌幹細胞マーカーの後方視的研究(KCOG-G1204s)の結果報告』 森重健一郎先生(岐阜大学)
『MD Anderson Cancer Center での研修体験談』 武隈宗孝先生(静岡がんセンター)
- 平成 27 年 7 月 4 日(土) 13-17 時 (O-DEC A 会議室)
夏季総会、特別講演会ならびに分科会
(講師:未定)
- 平成 27 年 8-9 月 (会場:未定)
分科会
- 平成 27 年 10-11 月 (会場:未定)
分科会
- 平成 27 年 12 月 19 日(土) 17-19 時 (ホテルグランヴィア大阪)
分科会ならびに特別講演会

(講師:久留米大学産婦人科教授 牛島公生先生、同助教 西尾 真先生)

- 平成 28 年 1 月 (会場:未定)
冬季総会、特別講演会ならびに分科会
(講師:未定)

4. その他

- 全国の主たる地方グループと共同して **Intergroup study** を遂行する。